

青年国際交流事業に関する検討会（第3回）議事要旨

1 日 時：平成25年6月11日（火）14:00～15:45

2 場 所：中央合同庁舎第4号館共用第2特別会議室

3 出席者：

（委員）牟田座長、赤尾委員、池上委員、井上委員、国井委員、小出委員、鴛委員、竹尾委員、弓削委員、藁谷委員

（内閣府）亀岡内閣府大臣政務官、清水内閣府審議官、伊奈川子ども若者子育て施策総合推進室長、原参事官（総括担当）、久津摩参事官（青年国際交流担当）、坂口調査官、大部参事官補佐（青年国際交流担当）

（ヒアリング対象者）

株式会社日立製作所 人財統括本部人事教育部長 田宮直彦氏

（オブザーバー）

日本青年国際交流機構副会長 大橋玲子氏

4 概要：

（1）開会

（2）ヒアリング

○ 株式会社日立製作所 人財統括本部人事教育部長 田宮直彦氏

- ・配布資料に基づき、経団連及び日立製作所が取り組んでいるグローバル人材の育成等について説明。

（3）事務局説明

- ・配布資料に基づき、「青年国際交流事業に関する検討会」における報告書の骨子（案）について説明。

（4）意見交換（主な発言）

○ グローバル・リーダー育成事業全般について

- ・発展のポテンシャルのある新興国も訪問の対象とした方がよい。
- ・事業の参加規模を戦略的に見ていく必要がある。どのように展開していくか夢を語ってほしい。
- ・内閣府が関係省庁の先頭に立ちリーダーシップを発揮してほしい。
- ・企業を巻き込むなどしてより多様な事後活動を行うべき。
- ・「リベラルアーツ教育の拡充」は日本の教育に欠けておりとても重要。
- ・各省共通の課題について、船のプログラムを通じて発信すると建設的なステップとなる。
- ・経団連と連携して人材育成を行えば一層効果的ではないか。
- ・地域行政や大学と一層連携すべき。大学と接点を持つ船の交流事業は重要な意味を持つ。

○ 広報・募集・選考について

- ・暫定的な合格者には一定の到達目標を提示するなど達成の目安を示すといい。

- ・「船の経験をどう活かしどう役立てているか」といった経験者の言葉で広報すると効果的。
- ・「タフな人材をつくる」や「世界の中心となるアジアを指導」など心に響くキャッチコピーが必要。「日本は海洋国家」という表現も若者に夢を抱かせる。
- ・地域の人材を含む多様な人材を集めるためのシステムが必要。
- ・グローバルリーダーの定義が限定的。地域からスタートし、国、世界を動かす人材を育成すること。そのために、ハードルを少し下げて経験はないが意欲のある若者を参加させてほしい。
- ・偏りのない男女比率についてより明確に記載すべき。

○ その他の事業について

- ・東ア船の予算規模はもっと必要。野心的な計画を打ち上げて増額すべき。
- ・アセアンのアイデンティティを高め、文化的な統合を進める意味においても東ア船は評価される。

○ 事業の経費について

- ・自己負担なしで行ける方法として、自治体が参加者を金銭的にサポートする仕組みも考えられる。

○ 効果測定・評価について

- ・日本の理解者、支援者を増やすという外交上の効果が高い。
- ・継続的に効果測定をすることは大事。評価委員会が第三者的な立場から改善点を勧告したりサジェストすることも考えられる。
- ・プログラムがうまくいっているかどうか定期的に評価することが必要。

(5) 亀岡大臣政務官 挨拶

- ・活発なご議論に心より感謝。「世界青年の船」事業の見直しについて多くのご意見をいただいた。グローバル・リーダーは地域の中で生まれ、そして、世界で通用する青年に育て上げることが大切。皆様方のご指摘を踏まえ、事業の見直しを行い、若者が活躍できる社会づくりを目指していく。

(6) 閉会

- ・報告書案については、委員の意見を踏まえ、6月中を目途に取りまとめることとした。

以上